

看護職員の負担軽減及び 処遇の改善計画

JCHO大阪病院では、看護職員の負担軽減及び処遇改善のため下記の項目について継続的な取り組み

- (1) 看護職員の負担軽減及び処遇の改善に関する責任者
事務部長、看護部長
- (2) 看護職員の勤務状況の管理 勤務時間（日本看護協会ガイドラインに準じる）
勤務間隔は 11 時間以上あける（勤務間インターバルの確保）
勤務拘束時間 13 時間以内とする
仮眠取得の確保と仮眠環境の整備をする
頻繁な昼夜遷移が生じない交代制勤務の編成とする
- (3) 多職種からなる働き方改革・業務改善のための委員会及び会議（1回/月）
働き方改革・業務改善委員会、労働安全衛生委員会、看護部業務委員会
- (4) 看護職員の負担軽減及び処遇の改善に資する計画 計画の策定
評価と次年度計画立案（1回/年）、職員への周知（部署内掲示）
- (5) 看護職員の負担軽減及び処遇の改善に関する取り組みの公開
院内に掲示、ホームページ上公開

看護職員の勤務状況

- 病床数 565床（実質稼働病床；525床）
- 看護職員数（2024年1月1日時点）
 - 看護師・助産師・保健師数
 - 正規職員 488名 非常勤職員 11.7名
 - 看護補助者 83名
 - 産・育休取得者数 40名
 - 時短職員数 53名
- 週平均勤務時間 週37.45時間
- 超過勤務時間数 平均6.3時間/年（2022年度）
- 有給取得数 平均11.5日/年（2022年度）

看護職員の負担軽減及び処遇改善のための取り組み内容

	2022年度	2023年度	次年度の課題
時間外労働が発生しない 業務量の調整	HWPの取り組み ユニフォームの変更 心理的安全性が高い職 場づくりなど	業務量調査結果からの検討 就業前勤務対策 情報収集時間の短縮	電子カルテ次期システム の構築 ITを駆使したDXによる 業務改善
看護職員と他職種との業 務分担			
薬剤師	OP室・病棟の麻薬管 理の検討	内服薬管理についてQC活動	内服準備・退院時指導の 協働について検討 化学療法室の配置
放射線技師	技士による造影剤注射	技士による造影剤注射の増員	急変対応の合同訓練
リハビリ技士	土曜日リハの開始	365日リハの開始 ICU患者の早期リハ件数増	病棟リハビリ室設置に向 けた検討
臨床検査技師			入院患者の採血依頼
ボランティア		ボランティア活動再開	採用強化
臨床工学士	当直体制の開始		MACTの設置

看護職員の負担軽減及び処遇改善のための取り組み内容

	2022年度	2023年度	次年度の課題
看護補助者の配置	定着化に向けた取り組み始動	ラダーレベルの導入 直接ケアの介助に向けた研修 ナイトエイドの配置	ラダーシステムの明確化 看護師業務補佐を強化
ニーズに応じた勤務形態の導入		キャリアやWLBに応じた採用の仕様	多様な勤務体制の構築 非常勤採用の開始
妊娠・子育て中、介護中の看護職員に対する配慮	男性職員の育児支援体制	助産師による産休前の面談	多様な勤務形態の開始
他職種の配置	MA20対1	MA15対1 救急救命士	介護福祉士配置の準備
メンタルサポート	HWPの活動	臨床心理士によるカウンセリング	精神CNSの配置 心理的安全性が確保された職場環境の構築
リリーフ体制	病床管理担当師長による采配	必要な部署へのリリーフ配置の可視化に向けた準備	日々の多忙部署の可視化を行い、適正配置
研修時間	E-learningの活用	E-learningの活用と研修時間の短縮	生涯学習支援体制に向けた教育システムの改築
会議時間	会議の縮小	会議時間の短縮	会議方法の検討